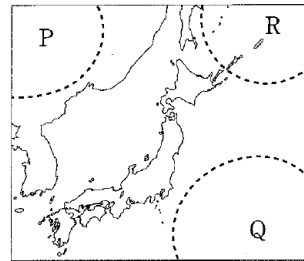


3 日本列島は大陸の東側の中緯度地帯に位置している。日本の周辺では、大陸や海洋などの影響で図1のようなP～Rの気団が勢力を強めたり弱めたりして、日本の各季節の気象に大きな影響をあたえている。図2、図3は、春、夏、冬、梅雨のいずれかの時期に特徴的な天気図である。これについて次の問いに答えなさい。

図1



(1) 図2の前線Xは、図1のP～Rのうちの2つの気団がぶつかり合ってきたものである。これについて次の各問いに答えなさい。


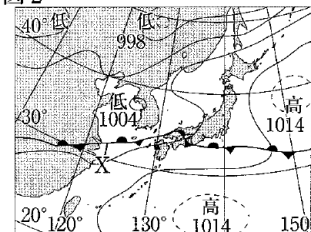
- ① 図2のときにぶつかり合っている2つの気団は、どれとどれか。図1のP～Rから2つ選び、記号で答えなさい。
- ② 図2の前線Xのように、で表される前線を一般に何前線というか。名称を答えなさい。

図2



(2) 図3のような天気図が見られる時期の気象について、次の各問いに答えなさい。

- ① a この時期に最も発達する気団は何気団か。名称を答えなさい。また、b その気団はどのような性質をもっているか。最も適当なものを次から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 冷たく、乾燥している。
 イ 冷たく、湿っている。
 ウ あたたかく、乾燥している。
 エ あたたかく、湿っている。

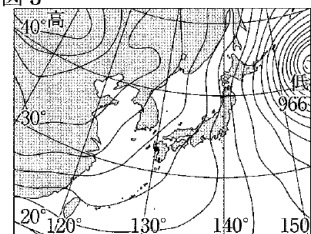
- ② この時期は、大陸から太平洋に向かって季節風がふくことが多い。次の文は、この理由を説明したものである。文中の{|}にあてはまるものとして適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

この時期は、a {|ア 陸 イ 海|}の方が気温が低くなり、陸にb {|ア 上昇 イ 下降|}気流が発生しているため。

(3) 夏の間、ユーラシア大陸に進んでいた台風は、秋になると日本に上陸することが多くなる。次の文は、この理由を説明したものである。文中の①にあてはまるものを図1のP～Rから1つ選び、記号で答えなさい。また、文中の②の{|}にあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

台風が、秋になると日本に上陸することが多くなるのは、図1の①の気団の勢力が、夏に比べて②{|ア 発達する イ おとろえる|}ためである。

図3



- (1) 図2は梅雨の時期の天気図であり、停滞前線(X)の北側に低温多湿なオホーツク海気団(R)、南側に高温多湿な小笠原気団(Q)がある。
- (2) 図3は冬の時期の天気図であり、大陸上でシベリア気団(P)が成長し、大陸から太平洋に向かって、冷たく乾燥した北西の季節風がふく。
- (3) 小笠原気団の勢力がおとろえると、台風は高気圧のへりに沿うように北上する。

(1)	①	Q, R		順不同完答		
	②	ていたい 停滞		前線		
(2)	a	シベリア		気団		
	①			完答		
(2)	b	ア				
	②	a	ア	b	イ	14
(3)	①	Q		②	イ	15
			完答			